

算命学中庸

【初年】 63 回目

63 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺の心得】 (1)

・【初年】 63 回目【天中殺の心得 (1)】 01

1 大運天中殺

2 年運天中殺

3 月運天中殺

4 日運天中殺

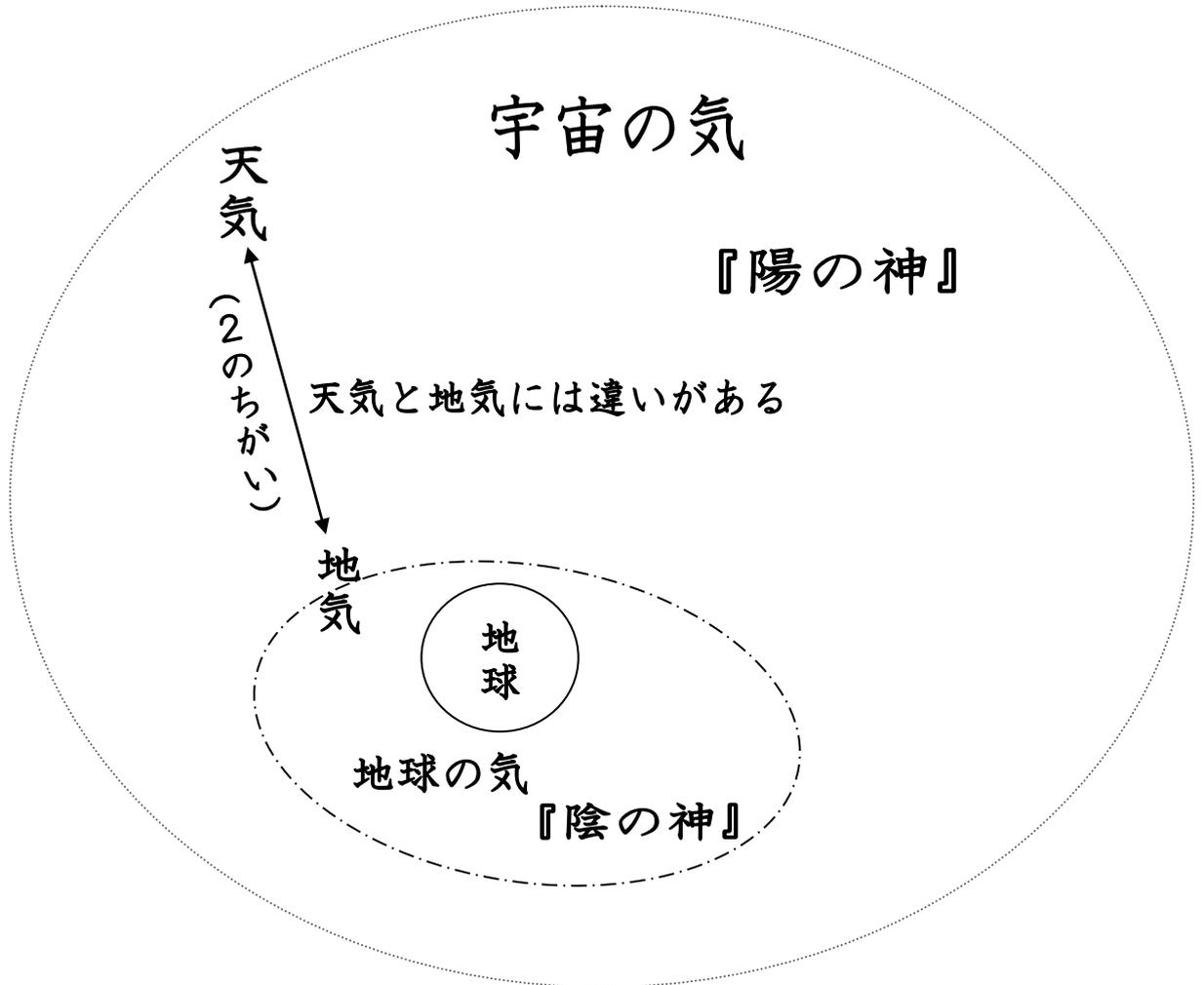
算命学は常に宇宙と地球を対比して考えます。

宇宙には宇宙の気「天気」があり、地球には地球の気(地気)があると考えています。

天気と地気には違いがあり、それが天中殺であると位置づけています。 参照⇒62 回目【宿命と健康】 04

「天気」と（地気）

宿命（1）天気と地気の違い



天中殺の成り立ちには^{いつわ}逸話があります。

宇宙の気「天気」を『陽の神』⇒ 陽の自然としたのです。

地球の気（地気）を『陰の神』⇒ 陰の自然としたのです。

算命学では宇宙の気^{ようしん}『陽神』を^{とうごう}統合して「天気」と^{しょう}称し、地球の気^{いんしん}『陰神』を^{とうごう}統合して（地気）と称して
いますけど、宇宙空間に地球が誕生したときから、
天気と地気の違いが出てきたとしています。

参考：逸話〔世人にあまりしられていない。〕

参考：統合〔二つ以上のものを一つにおさめること。〕

〔天は宇宙の千種万類を創造したのみに非ず創造の後常に之を統合〕

『陽神』と『陰神』の考え方の違い、この考え方の違いの部分が「天中殺」に相当します。

その違いとは――。

『陽神』の考え方は――宇宙を構成しているのは、「10種類の気」が集まって造られたと言います。

『陰神』の考え方は――宇宙を構成しているのは、「12種類の気」が集まって造られたと言います。

そこには10と12の違いがあります。

このように、陽神の考えていることと、陰神の考えていることに齟齬が生じました。

この齟齬の部分が天中殺であるとしています。

陽神と陰神の考え方の違いに〔ひずみ〕が存在し、その〔ひずみ＝ゆがみ〕が天中殺になります。

⇒ 現実として——地球上には人間を含めて生物が誕生しています。

万物は生者^{しょうじゃひつめつ}必滅であり、諸行無常^{しょぎょうむじょう}ゆえに、植物であれば、種を残存して子孫を生き永らえさせます。

人間も生者必滅であり、諸行無常です。本人の肉体は、
朽ち果てても、魂^{たましい}は永遠不滅の存在です。

中庸学〔人間は意志と知性をもち、子孫を残さない人もおられます。子孫を残さずに本人の肉体は朽ち果てようとも、本人の靈魂は永遠不滅の存在です。〕

参考：生者必滅〔すべて無常で生命あるものは必ず死滅する〕

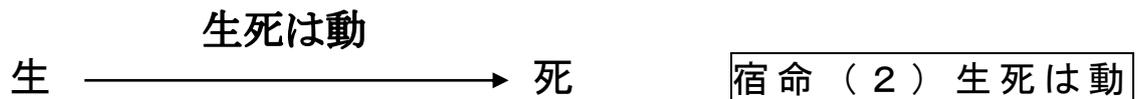
参考：諸行無常

〔大宇宙は瞬^{またた}く間^まにも変化変滅を繰り返して常^{つね}なき姿です。生あるものはとどまることを知らず変化しつつ動いています。そこに生者必滅の姿はあっても、永久不変なのはないということ。〕

⇒ 地球上のどんな生物でも必ず死にます。

永久に生きる生物は地球上に存在しません。

生と死は『動^{どう}』であり、生きるということと、死ぬ
ということは、表裏^{ひょうり}の姿であると考えています。



算命学は、生物が生まれるということに対して、
「天気」と（地気）の融合が必要になると考えています。

そこで天気と地気がお互いの^{だきょうてん}妥協点を見つけようということになりました。

そうしますと「天気は 10」（地気は 12）ですから計算が合わないのです。

「陽神」 10 が 6 $\Rightarrow 10 \times 6 = 60$

「陰神」 12 が 5 $\Rightarrow 12 \times 5 = 60$

しかし、お互いに 60 が生まれます。

「天気/十干」 10 と （地気/十二支） 12 の妥協点は 60 という数字です。

そこで『陽神』と『陰神』は、この 60 を地球上の^{こよみ}暦の原点と決めたわけです。

参考・妥協点 [お互いに歩み寄って一致できるところ]

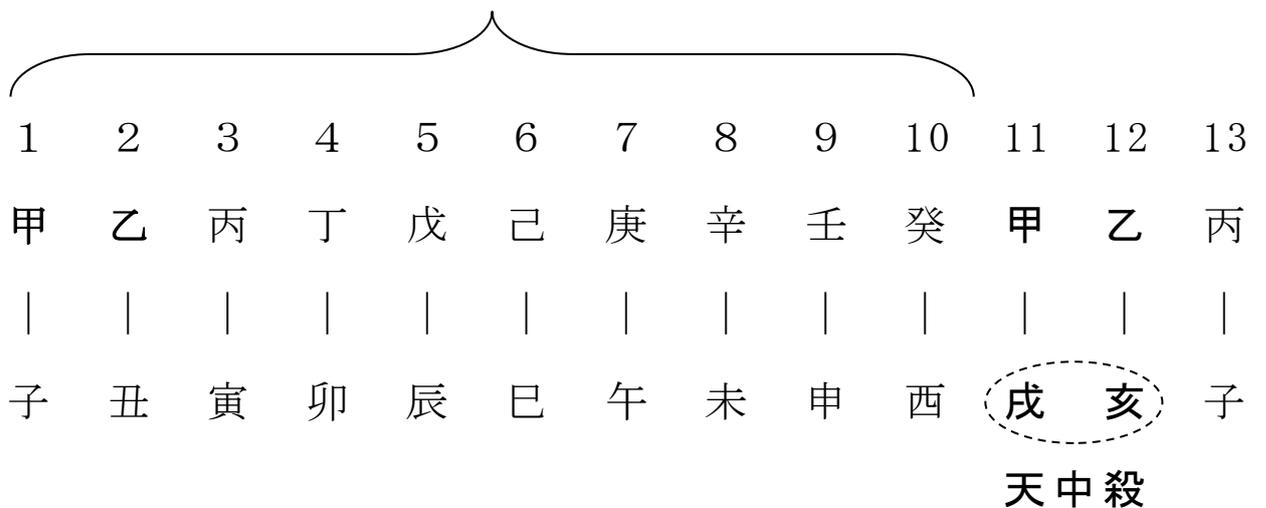
宿命（3）天中殺表

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

宿命（4）天中殺範囲

自然な結びつき（自然融合）



天中殺範囲（不自然融合・はずみ）

天中殺の範囲は余った十二支 戌亥 のところです。

『陽神』 $\boxed{10}$ が 6 $\Rightarrow 10 \times \boxed{6} = 60$

『陰神』 $\boxed{12}$ が 5 $\Rightarrow 12 \times \boxed{5} = 60$

$\boxed{10}$ と $\boxed{12}$ そして $\boxed{5}$ と $\boxed{6}$ の合わない部分に妥協点^{だきょうてん}を見いだしたわけです。しかし〔歪み^{ひず}〕が生じました^{しょう}。その〔ひずみ・ゆがみ〕の妥協点を天中殺と名称したのです。

〔たとえば〕天中殺を自動車のハンドルの〔あそび〕に置き換^おえ^かると……安全なハンドル操作には不可欠といえます。

歪み^{ひず}・妥協点 \Rightarrow 天中殺

地球上に生まれるすべての生物は、妥協点をもって生まれていると考えています。

地球上の生物で、五行（木火土金水）を備^{そな}えているのは人間だけです。

人間とほかの動物を比較したときの最大の違いは『知恵がある』ことです。

人間がもっている知恵と、おなじ段階^{だんかい}の知恵をほかの動物はもっていません。

それゆえ、天中殺は人間にしかつかえないのです。

参考・妥協点〔双方が互いに歩み寄って一致できるところ〕

『陽神』の宇宙の気「天氣」は 10 種類です。
宇宙を分類してできたのが「十干^{じっかん}」です。

『陰神』の地球の気「地氣」は 12 種類です。
地球の時間を分類したものが（十二支^{じゅうにし}）です。

地球の時間を大きく分ければ、4 季節の春夏秋冬です。それぞれの季節の中心は（春分^{しゅんぶん}）（夏至^{げし}）（秋分^{しゅうぶん}）（冬至^{とうじ}）です。

春夏秋冬の各季節をそれぞれ三等分すると 12 になり、その 1 つが一月の原理です。

その各月につけた符合^{ふごう}が十二支の（子^ね～亥^い）です。

お互いの妥協点を理解して、十干と十二支が結合して、60 の干支「六十干支」ができました。

それゆえ六十干支^{ろくじゅうかんし}は地球上でしか通用しません。

天文学でつかう時間の基準も、全て地球上のもので
す。1 光年は 1 秒間に 30 万キロの速さで進む光が
1 年かけて進む距離です。

その光年を km で表すと、1 年間で約 9 兆 4 千 6 百億キロ
メートル進むのだそうです。

地球と月とのあいだの距離は、38万4千キロメートルです。光の速度で飛行する乗り物があるとすれば、わずか1.3秒で月に到着するそうです。

ちなみに、地球上から観測できる1番遠くの天体は光の速さで130億年かかるそうです。

つまり、その天体からの光は130億年前に放たれました。

私達は130億年前に放たれた光を目にするわけです。

この「^{こうねん}光年」という光の速度も地球上の単位であり地球中心の単位です。

それは人間が地球上で観測した単位です。

ほかの天体にも——人間のような生物が存在すればまったく違った単位を基準にするでしょう。

その意味でも「^{ろくじゅうかんし}六十干支」は地球上でしか通用しないのです。

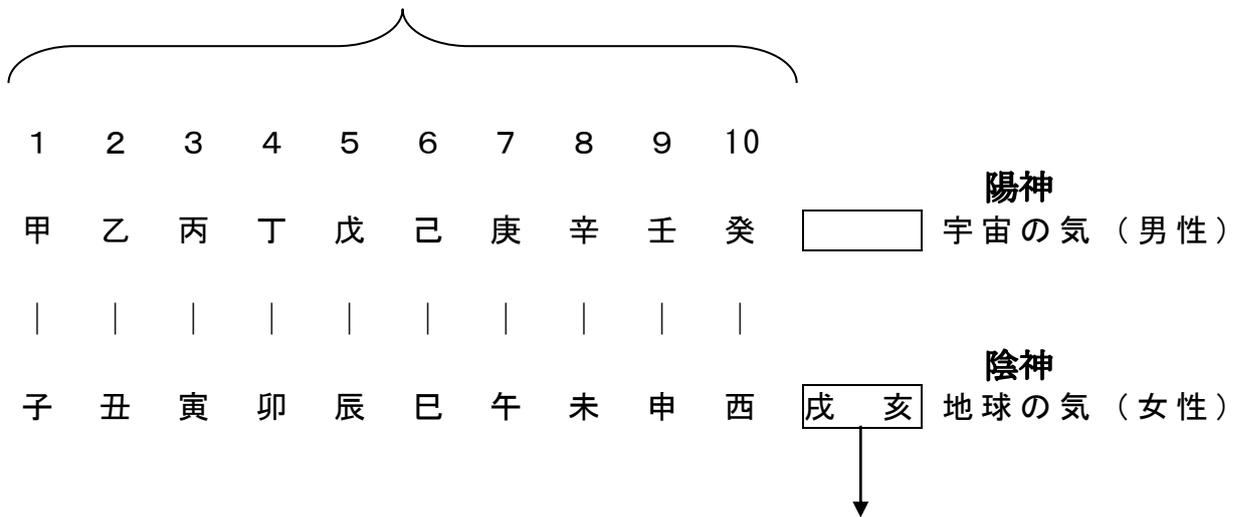
六十干支の話にもどります ➡

十干は「^{じっかん}甲木^{こうぼく}～^{きすい}癸水」まで 10 種類あります。

十二支は（^{ねすい}子水～^{いすい}亥水）まで 12 種類あります。

宿命（5）自然融合

自然な結びつき〔自然融合〕



天中殺範囲〔不自然融合／ひずみ〕天中殺

このグループの組み合わせでは、空間を得ることができません。

〔たとえば〕どちらが男性でも、どちらが女性でもよいのですが、算命学は男が（陽）で、女は（陰）と定めています。

それに則して考えますと、『陽神 10』に対して——『陰神 12』です。

〔たとえば〕陽神の宇宙の気と、陰神の地球の気が結ばれて、結婚するとなれば、陰神の 戌 と 亥 の2人は相手がいないので、結婚できない人物ということになります。

結婚できない2人は、^{ふしぜんゆうごう}不自然融合のグループに^{はい}入ります。

「甲 1」～「癸 10」までのグループは結婚できますから自然融合になります。「甲」～「癸」は「天気」と（地気）が融合していますから自然融合です。

「天気」と（地気）が不融合で結婚できない（地気）の不自然融合は『陰神』の 戌いぬど と 亥いすい です。

この不自然融合「ひずみ」の部分^{しょう}を「天中殺」と称しているのです。

十干はこのグループが6グループできます。

「陽神 $10 \times 6 = 60$ 」

十二支はこのグループが5グループできます。

「陰神 $12 \times 5 = 60$ 」

これらのことが天中殺の原理になっています。

人間がこの世で存在を保つためには、不自然融合に打ち勝ち、苦しみや困難を切り抜けて、生き通すことにもなるわけです。

10 頁～11 頁で説明しましたが、不自然融合の 戌 と 亥 のグループが存在します。結婚ということで考えますと、まとまらない 2 人がいるわけです。（女性 2 人、男性 2 人、どちらにも当てはまります）

結婚できない 2 人はどのように生きていけばよいのか、ということになります。「陽神を男性」「陰神を女性」とすれば、このことは男性にも女性にも当てはまります。

これから述べる事柄は、結婚に限ったことではないのです。結婚に限らずです。

天中殺の年^{とし}に遭遇した人は「その期間をいかにして生きてゆけばよいのか…」という心得^{こころえ}です。

- ① 人生を達観する心境。
- ② あせってもどうにもならないと考える心境。
- ③ 自然のなすがままに任せるという心境。
- ④ 全てを「受け身」で生きる心境。
- ⑤ 世俗の欲を捨てる心境。

参考：心得 [承知すべきこと] 参考：心境 [こころの状態]

参考：達観 [物事にとらわれなくて、喜怒哀楽を超越すること]

[細部にとらわれずに、何事にも動じないこと]

②と③は…④の「受け身」という話に結びつきます。

「受け身」の反対は「積極的」になります。

「受け身で生きなさい」と「積極的に生きなさい」は、正反対のことです。

「受け身で生きなさい」というのは、天中殺のあいだの生き方ですから、“積極的に生きる”ことを捨ててください。

それは「新しい事をしない」ということです。

このことに矛盾むじゆんを感じる方もおられるでしょう。それを「する」「しない」は個人が選ぶことです。

算命学は、天中殺のあいだは「受け身で生きなさい」といいます。それは「積極的に生きるのは止めなさい」ということです。

〔たとえば〕誰かから『仕事を一緒にしよう』と、誘われたら受け身です。誘われたというのは受け身ですが、その仕事をやれば新しい事になります。

このように、相反そうはんすることが同時に起ります。この場合には『新しいことをしない』ことが優先されます。参考：相反〔互いに反対の関係にあること。〕

新しい事^{こと}というのは……自分の人生を変えるような大きなことです。その解釈は難しいのですが、

〔結婚する〕〔家を建てる〕〔引越しをする（居住地を変える）〕〔出版をする〕などは、人生を変える事^{じたい}態と考^{ひか}えますから控^{ひか}えることです。

参考：事態〔物事などのなりゆき。〕

〔たとえば〕今までサッカーを観^みたことがないのに天中殺に入ってからサッカーを観戦した。

これは人生を変えるほど大きなことではないわけですから、その程度はよいです。

天中殺（不自然融合）のあいだに、人生を変えるようなことを行^{おこ}なえば、天中殺が自分の人生にとって、マイナス作用を起こすだけのことです。

天中殺で新しい事をする^{こと}と、天中殺の「気」が——〔一生死ぬまで〕ついて来^きます。

〔たとえば〕天中殺で結婚して、天中殺で子供をつくりました。

〔たとえば〕天中殺で引越しをして、仕事を変えたとなれば、禍^{わざわい}を受けないはずはないのです。

その ^{わざわい}禍 も—— その人に直接くればいいのですが、つまり自分の行為の結果を自分の身が受けるのなら仕方ないわけですが、自分の妻や夫、子供、親など、その人たちにも、禍を与えてしまうということも起ります。

自分で禍を受けるようなことをやったのであれば、自分自身が ^{わざわい}禍 ^{かぶ}を被ればよいのですが、そうはいかないのです。

そこが運勢の“からみ”でもあるのです。

つまり、運勢が関係し合うのです。

参考：からみ [巻きつくこと。] [まわりに巻きつく。]

⇒ 四種類の天中殺について述べます。

1 大運天中殺（たいうんてんちゅうさつ）

算命学では、人間の寿命は〔120 歳〕まで生きられるという考え方に起因しています。

誰もが〔120 歳〕まで生きられるわけではないのですが、人間は〔120 年間〕生きられると考えているのです。

人間の寿命〔120 年間〕のなかに存在している〔20 年間〕の天中殺を「大運天中殺」をいいます。

2 年運天中殺（ねんうんてんちゅうさつ）

12 年のなかの 2 年間（十二支が 1 旬するなかの 2 年間）です。

3 月運天中殺（つきうんてんちゅうさつ）（げつうん）ともいう。

1 年 12 ヶ月のうちの 2 ヶ月間です。

4 日運天中殺（にちうんてんちゅうさつ）

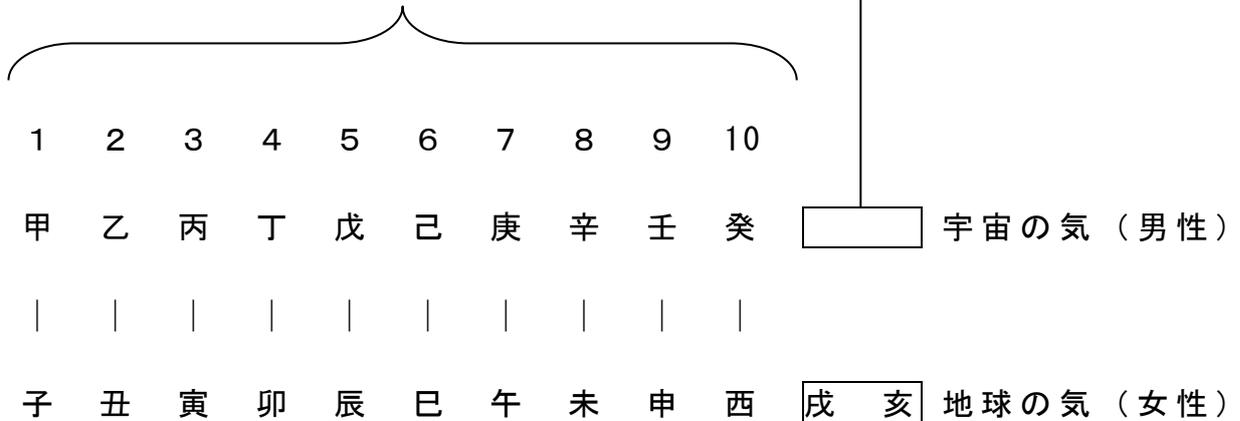
十二支が^{いちじゅん}一旬する 12 日間のなかの 2 日間です。

「大運」「年運」「月運」「日運」これらの天中殺において…… 『2』という数字が天中殺の範囲になります。

宿命（6）自然融合

相手を得られない空間の質

自然な結びつき〔自然融合〕



「甲子」から始まって「癸酉」までのグループには相手がありますが、「戌」と「亥」のグループは結婚できない2人ということでした。

ところが、宇宙の気「陽神」のグループはそのまま来ていますから、相手を得られないグループである と の上には、この場合「甲」「乙」が載ってきます。

ここに載^のってくるのは、 になります。

この空間の質が、天中殺に含まれる種類ということになります。

それは、**幸せ**かもしれない、**寿命**かもしれないし、**お金**かもしれない、**名誉**かもしれない、**知恵**かもしれない。これら五種類のいずれかになります。

その五つは〔福^{ふく}寿^{じゅ}禄^{ろく}官^{かん}印^{いん}〕の五^ご徳^{とく}です。

得^えられない空間の質は……五種類のどれなのかを判断します。

そうしますと、今度——自分にまわってくる天中殺が〔禄〕なのか、〔官〕なのか、〔印〕なのかということになるわけです。

〔福〕幸せに問題がでるのか、〔寿〕健康に問題がでるのか、〔印〕知恵に問題がでるかのいずれかになるということです。

もしかすると、五種類にうちの四種類が全部まわるということもあり得ますし、おなじ種類が一緒にまわるということもあります。

どの種類の天中殺がまわって来るのかにもよりますが、ご自分で天中殺のあいだの事柄に関わる^{わざわい}禍^{わざわい}を避^さけることができます。

その方法論として——天中殺に〔禄^{ろく}〕がまわって来るのなら、お金に関して注意することです。

お金を投機的につかうことに注意しなさい。という

ことにもつながるわけです。

〔たとえば〕株などの投機とかも入ります。

⇒ 「大運天中殺」「年運天中殺」「月運天中殺」「日運天中殺」

四種類の天中殺の長さは違いますが、天中殺のもつ質そのものはすべておなじです。

長さの違いによって、天中殺の状態が違うことはあります。

しかし……大運天中殺は 20 年間あるから大変で、日運は 1 番短いから問題にはならないということではないのです。

^{たいうん}大運であろうと、^{ねんうん}年運であろうと、^{つきうん}月運であろうと天中殺の質はおなじです。

⇒ 天中殺について具体的に考えます。

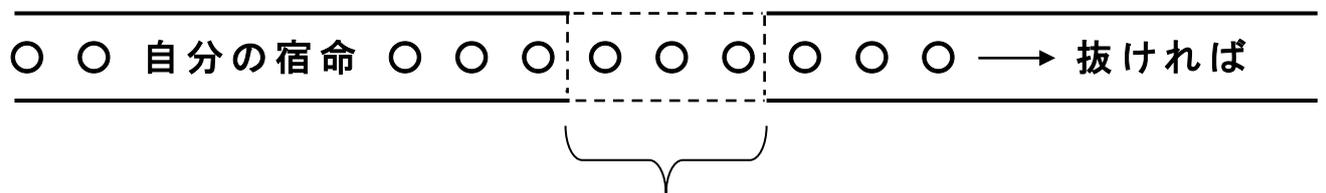
人間が生きるということは、2024 年、2025 年という決められた時間のなかを生きているわけです。

その時間をトンネルにたとえますと、誰もが宿命にもっています。天中殺の期間というのは自分の宿命のトンネルが切れている部分です。🔍つぎの頁の図

自分の宿命がトンネルの左側から入って、点線の部分を無事に通過して、トンネルの右側に来れば、

天中殺を通過したことになります。この空間が欠如していますが、時間はあるのです。時間がなくなれば死にます。現在^{いま}生きているということは時間があることです。（天中殺は時間はあるが空間がない状態）

宿命（7）宿命のトンネル



切れている部分は、大運天中殺は20年間、

年運天中殺2年間、月運天中殺2ヶ月間、日運天中殺2日間。

大運でも、年運でも、月運でも、日運でも「天中殺の質はおなじ」です。期間の長さは異なります。

「大運天中殺は20年間で長いから大変だわあ」と、
いうのはそのとおりです。（大運天中殺の無い人もいます）
20歳～40歳の20年間の天中殺は大変でしょう。

（この年代は結婚など一生のうちでも大きなことがあります。）
平均寿命を〔80歳〕とすれば……80歳のあいだの
20年間ということになります。

天中殺は勢いきおいがあるときに問題が出ますから、若い人ほど大変です。

高齢になると本人も枯かれてきて、勢い盛んなありさまが無くなってくるので、若いときのように大きな変事はないといえますが、やはり天中殺は大変です。

☞ そこで時間の長さに照らし合わせて考えます。

天中殺そのものの勢いがあるのは「年の天中殺」です。天中殺のなかでも「年の天中殺」は1番勢いがあります。若い時代であろうと、年齢を重ねた時代であろうと勢いがあります。

「大運天中殺」は20年間という長期にわたる長さです。それゆえ勢いゆるが緩むとは言い切れませんが、長々としまりなく続きます。勢いのある年の天中殺と比べれば、大変ではないと考えています。

〔20歳〕から大運天中殺に入っている人に〔結婚をしない。引越しをしない。子供はつukらない。〕といってもそうはいかないわけです。

算命学は、人間は各人平等ですが「運勢は不平等」だと考えているのです。

〔20 歳〕 から 20 年間の大運天中殺がまわって来る人もいますし、〔60 歳〕 から大運天中殺がまわって来る人もいるわけですから、その意味で不平等ということですが。

そこに算命学の真価があります。

一人ひとりの人間の運勢を観て、その人の固有の質を^{おも}重んじて、その人に^{そく}即した占いをできるからです。

〔20 歳代〕 に大運天中殺がまわって来ない人の場合は……〔20 歳代〕 にまわって来る人に比べれば生き方は楽です。

しかし、それが本人の幸せにつながるのかどうか、それは別のことです。

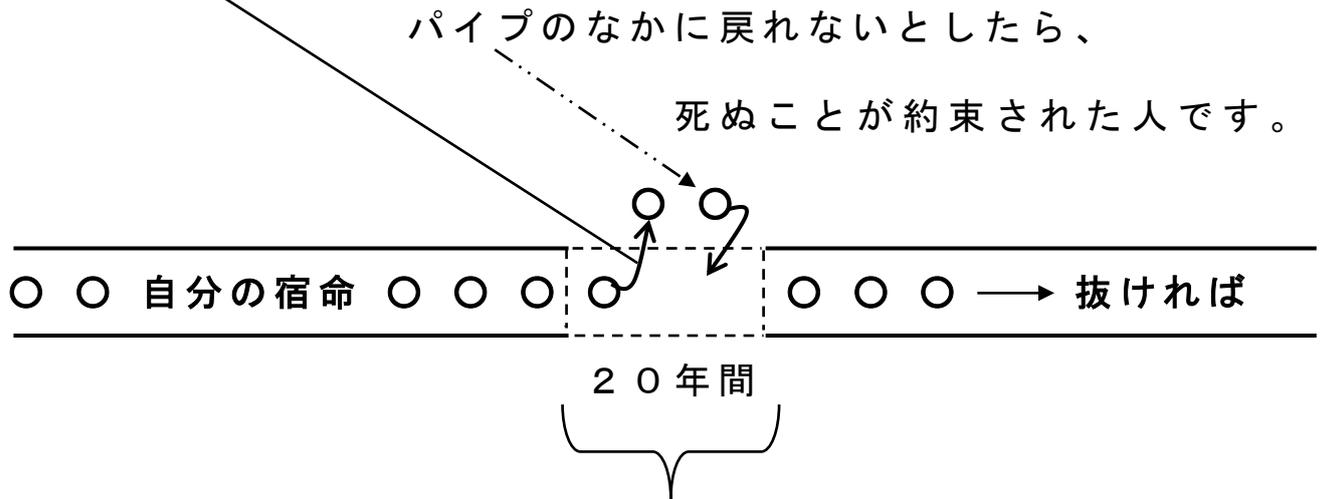
大運天中殺がある人が、自分の宿命のトンネルにある空間の部分をうまく通過して、つぎのトンネルに行くことができれば、むしろ大運天中殺が無い人よりも幸せになるかも……と考えています。

⇒ そうしますと、どうしてトンネルの空間の箇所が、
^{わざわい}禍 になるのでしょうか。 ➡

☞ どうしてトンネルの空間の箇所が^{わざわい}禍になるのでしょうか。

宿命（8）トンネルの空間

外へ飛び出す可能性があります



無い部分は——自由に宇宙遊泳できますが、戻^{もど}って来られなければ、死ぬしかないと考えています。それゆえ、天中殺のあいだは『積極的に生きるな。受け身で生きなさい。』と言っているわけです。

算命学を勉強していない人は、自由に自分流に生きているはずです。

自由に生きることによって……成功するかも知れません。失敗するかも知れません。

いずれにしても、トンネル内に戻^{もど}れなければ——その人はこの世から、淘汰^{とうた}されることとなります。その意味で20年間は大変です。

チョット踏^ふみ外^{はず}すと、どこかへ行ってしまうのです。
『2年間だから大丈夫だ』とおもって、飛び出して
しまうと、今度は期間が短いので戻りにくいです。
期間が長ければ飛び出しても、戻って来れる可能性
はありますが、2年間は短いので戻^{もど}って来られない
かもしれません。

その意味で、2年のあいだに新しいことを起こした
とすれば、大運天中殺よりも年運天中殺のほうが
わざわい
禍 になりやすいのです。

そうしますと「月運天中殺」「日運天中殺」は期間が
短いので、空間へ飛び出すほどの時間的余裕は無い
とも考えられます。

2ヶ月とか2日間はあっという間に過ぎてしまいます。
短いので余裕はないのですが、器用な人は飛び出し
てしまうかもしれません。

そうなると戻るのは非常に大変です。

大運天中殺であろうと、ほかの3つの天中殺であろ
うと、すべてこのような構造になっています。

【初年】 63回目【天中殺の心得（1）】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 64回目【天中殺の心得（2）】 です。